

二国間・ウクライナ人道危機救援事業

薬剤師 仲里 泰太郎

派遣期間：2024 年 1 月 19 日～2024 年 3 月 16 日

派遣先：イヴァノ＝フランキウスク・ウクライナ



2022 年 2 月 24 日より激化したウクライナ人道危機において、赤十字は、国際赤十字・赤新月社運動全体（ウクライナ赤十字社をはじめとする各国赤十字・赤新月社、赤十字国際委員会（ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）を含む）で、この危機に対応しています。現在、ウクライナ赤十字社への各国赤十字社のサポートの元、ウクライナ各州において、主に東部からの避難民の方を対象

低気温で凍結した湖

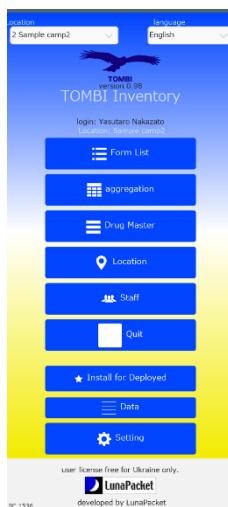
とした巡回診療チームが展開されています。その中で日本赤十字社は、二国間事業として 2022 年 11 月より、ウクライナのイヴァノ＝フランキウスク州において巡回診療チームをサポートしています。私は昨年、この事業の最初の事業管理要員としてこの巡回診療チームを 4 カ月に渡って支援しました。今回はこの巡回診療チームの、主に医薬品関係に関するサポートを中心に 1 月から 2 カ月間活動してきましたので、報告します。

イヴァノ＝フランキウスク州はウクライナ西部の都市リヴィウから車で南に 3 時間程度の場所にあります。紛争から 2 年が経過し、巡回診療チームを取り巻く環境も変化していく中、それに適合するようなチーム再編をまず行いました。その過程で、諸事情により残念ながらチームを離れていく方も出ました。次に、不安定だった医薬品供給を見直し、安定したものにするため様々な施設と折衝を重ねることで、定期的に医薬品が



巡回診療の様子

購入可能なルートを作ることに貢献しました。最後に、これら医薬品の出納を管理するためのシステムソフトウェアの開発を行いました。無料の Google Workspace®を使用したものをまず作成し、次に専門家の方の助力の基、Clarif FileMaker®を用いたものを作成しました。この 2 パターンのソフトウェアをウクライナ赤十字社に提示し、最終的に私のアイデアやコンセプトを基にウクライナ赤十字社側で新しいシステム



を開発するという形になりました。これについては現地ウクライナの方を始め、日本からもリモートで種々サポートして頂きました。

現地では 2 年が経過したことで紛争が日常化してきている印象を受けましたが、2 年の経過によりどんどん生活が苦しくなっている人や、ストレスが大きくなってきている人も増えています。このような人々を今後も継続的にサポートしていければと思います。

ソフトウェアのトップ画面